

一球通信 vol.152

*****コンテンツ*****

1. 新幹部紹介
2. 令和2年度上半期OB会費ご協力のお願い
3. 広商交流50周年企画
 - 〔1〕 OBOG より
 - (1) 齊藤力様 (S48 卒)
 - 〔2〕 プレーバック交流史
 - (1) 倉田紀彦様 (H8 卒)

1. 新幹部紹介

先月行われた秋季総会にて新幹部が承認されましたのでご報告させていただきます。

役職	氏名	学部学年	出身校
監督	栗 圭史郎	社 3	富山中部
主将	阿部 誠也	商 3	大分上野丘
副将	江角 直人	社 3	日比谷
副将	笠松 慎	経 3	奈良学園登美ヶ丘
主務	高崎 修	経 2	北広島
副務	池田 健太郎	社 1	東京学芸大附属
マネージャー長	浅川 彩音	社 2	川越女子
会計	佐藤 理織子	社 2	公文国際学園
会計	古川 真帆子	商 1	富士見

秋リーグは4部優勝を逃し、実力不足を痛感しました。春季に4部優勝、3部昇格できるよう幹部を中心に練習内容、取り組み方を考え練習に励みたいと思います。新チームへのご声援、宜しくお願い致します。

2. 令和2年度上半期 OB 会費ご協力をお願い

秋季総会におきまして、令和二年度上半期 OB 会費のご納入を下記の要領で仰ぐことのご了承を得ました。つきましては、首都圏にお勤めの方には、1月中旬以降、部員から訪問のお願いをお電話またはメールにてさせていただきますので、ご都合がつく際には是非宜しくお願い致します。地方にお勤め・お住まいの方につきましては直接お伺いすることができず大変申し訳ございませんが、振込にてご協力していただきますようお願い申し上げます。また自動引落での会費のご納入も引き続き承っております。現時点で利用されていない方も宜しければご検討ください。ご興味のある方は2月末までに PC アドレス (hit.u.bbc.mg@gmail.com)、あるいは主務携帯 (090-9385-7015) までご連絡ください。何卒宜しくお願い申し上げます。

1. 期間 12月上旬～(振込みの場合は2月中旬までにお問い合わせ申し上げます)
2. 金額 昭和46～51年御卒業の方 通常会費のみ ¥5,000—
昭和52～平成31年御卒業の方 通常会費のみ ¥10,000—
昭和45年以前ご卒業の方 特別協力金(任意) ¥5,000—

※選手非経験者(マネージャー等)の皆様の通常会費は、昨年より半期5,000円に変更となっております。昭和46～51年御卒業の皆様、選手非経験者(マネ

ージャー等)の皆様からのご厚志のある方は任意で10,000円を承りますので何卒宜しくお願ひ申し上げます。

納入方法

- ・部員の訪問〈首都圏にお勤めの方でご都合の付く方〉
- ・郵便振替 口座番号 00180-7-111287
同封の振込用紙をご利用ください。
- ・銀行振込 三井住友銀行国立支店 支店番号666
普7264477「一橋大学硬式野球部」
- ・口座引き落としによる自動集金 S45-H31 卒の方で同意書にご記入頂いた方
なお今季の自動引き落とし日は4月10日となっております。

4. 広商交流50周年企画

〔1〕OBOGより

(1) 齊藤力様 (S48 広商卒)

〔2〕プレーバック交流史

(1) 倉田紀彦様 (H8 卒)

今年度は12月24日(火)から28日(土)までの期間で広商合宿を行っております。次回の一球通信にて合宿の様子をお伝えさせていただきます。

主将原岡賢一郎（旧名健一郎）さんに感謝

昭和四十八年広島商業高校卒業

昭和五十一年早稲田大学教育学部卒業

現在 麻布十番日本料理店「諒」経営 斉藤 力

私が、一橋大学野球部の方々と、初めてグラウンドでお会いしたのは、今から三十年余り前になります。昭和四十五年夏の事だと記憶しています。

当時、私はイガグリ坊主の高校一年生でした。毎日練習に明け暮れ、一橋大学野球部の人達が、なぜ、合同練習をするのかなあと思っておりました。というのも、一橋大学というと、私達の感覚ではガリ勉で青白いお兄さん達が何も好きこのんでつらい練習などしなくても、と思っただけです。

ところが、頭でっかちだけの野球同好会の集まりかと思っていた私は、逆に真摯な態度で練習を行っている人達を見て自分達のほうがはるかに弱くなったのを昨日の事のように覚えていきます。

又、一橋大角との練習試合の時、木村さん、今井さんのバッテリーとの対戦でした。私は、アウトカウントをまちがえて、まだ2アウトなのに、三振の時のボールをマウンドに向けてころがしてしまい、大変おこられたのを思い出しました。

話はとんで、高校三年生の夏の県大会は、残念ながら宿敵広陵高に敗れ、私の高校野球生活は終わりました。

高校二年の時に、あるていど法政大学進学が決まっていたと思っていた私は、畠山部長先生（当時）に急に呼ばれて昨年の浜田先輩に続いて山坂（主将）と二人で受験してみないかと言われ、一週間程時間を下さいと答え、熟考の末、受験させて頂きまずと答えました。

自分の腹づもりでは、一浪覚悟の上で、本来子供の頃よりあこがれていた、慶応ボーイになろうとひそかに思っていました。

実は、中学生の頃、夏は東京の予備校へ通い、高校から慶応高校へ進み、そのままエレベーターで慶応大学に行きたかったからです。当時、加山雄三の若大将シリーズが全盛の頃で、あこがれたものでした。

そのあこがれはさておき、まずは早大受験となりました。

八月の一月間は、東京の一橋大学の原岡主将に勉強のノウハウを教えて頂く為に上京した時以外、自宅を一步も出ませんでした。何故一歩も外出しなかったといえます、自分が遊びたいという誘惑に負けそうだったからです。

三年間野球ばかりで、ある面やと一段落ついた所で遊びたいのは人情です。

大学受験の科目は、英、国、社の三教科です。まず英語は、毎日毎日単語を百個ずつ覚えめました。覚える為に何回も何回も、書いて覚えめました。

当時、ビッグというボールペンを使って覚えましたが約三日位で一本がなくなりました。それを受験の日までボールペンの上のすきまに何本目とか、書き入れておいて自分に対する自信に変えていきました。

社会は、政治経済をとりました。これは、独学で勉強しました。というのも、記憶力勝負の色合いが強い教科でしたので、自分自身の努力以外ないと考えたからです。

高校一年の入学時は、クラスで三番位だと記憶していますが、野球部の現役の際は、どうしても野球に力が入っていましたので、成績が下がっていきました。二年時には、まん中位になり、三年の夏の大会前には四十四人中四十四番になり、母親にもうこれ以上は下がらないから心配しないでといったのを覚えています。ただし赤点はとった事なく、練習停止は一度もありませんでした。

八月から十二月のころまで一か月に一回程、一橋大学よりテスト用紙が送ってきて我々で模擬試験を行い、一橋大学へ送り返して採点してもらい又、送り返して頂くという作業を繰り返しました。

最初は、まったくダメでしたが勉強をはじめたら、おもしろいように成績が上がっていき、勉強とはとてもおもしろいものだなあと思いました。

しかしすぐにカベに当たりました。最初は模擬テストで三十〜四十点しかとれませんでしたので少しずつ上がっていき、六十〜七十点となれば、それより上はすぐ上がっていかないのはあたり前でした。そこからの亀のごとく、一歩ずつ一歩ずつ上げていくという作業の繰り返しでした。

ただその時、私自身が痛切に感じて、今では若い受験生の人にも言っているのは、一橋大学の人達のような超エリー

トは別格として、普通の大学を受けるのは、そのやり方つまりノウハウがとても大事で、又極論すれば、これがすべてかなという位だと思いました。私のように夏の大会が終わり八月から一月までの半年間しか勉強する事ができなかった者は、一日十何時間勉強したとしても、ドラドラ時間だけ費やしたものは、ダメで今日一日一日の目標をたて、週の目標をたて、月の目標をたて、半年間の目標をたて、日々の勉強を自分のノルマと課し集中しておこなえるかどうか勝負のカギだと思っていました。幸いにも、当時は、若く野球部でできた体力には自信がありましたので、集中力の持続だけは負けなかったと自負しています。

その考え方は、現在にいたるまで自分の中で脈々と流れています。

さて冬休みになり一橋大学より新チームの主将の原岡さんが我が家に約一か月間、滞在しました。昼から夜にかけて広商でのハードな練習、我が家に帰ってきてからは、朝の四時、五時まで受験勉強の手伝いと、私自身に負けずおとらずの過密スケジュールだったと思います。夜中の二時頃か三時頃になりますと原岡さんもねむそうになり、後は課題を出してもらって先に休んでもらった事もありました。

又、どうしても身の入らない時は、休憩をとってよくボーリングへいったものでした。コーヒーブレイクの時、野球談義に花を咲かせて実技の話の時は、投げ方は胸をはって肩が出てそれからヒジが出て手首、最後に指先でピューと切つて投げなければダメだとか、勉強の時は時々ねむそうな目をしているのに、野球の話になると目の色が違うなどいわれました。

一つ雑談になりますが原岡さんにお風呂に入って下さいというのと、何十分もあがってこないで心配していると、我が家はみんな熱風呂なので「ボクは、ネコ肌ですので篤くてなかなか入れませんでした。」と行ってやと出てきた原岡さんの第一声で家族みんなで大笑いした事がとても、なつかしく思い出されます。みんな一橋大学というと特に地方では、ガリ勉ばかりじゃないのかという先入観がありましたので、稀有な人もいるのだなとホッとしました。

さて二月に入り本番の受験です。まずは、雰囲気になれる為に日本大学の経済か理工か今では、忘れてしまいました。が受けました。問題が大変難しくして予定通り落ちました。

次は、志望の早大受験です。早大野球部からは、三学部うけて下さいとの指示を頂きました。教育学部(本命) 商学部(うまくいけば) 社会学部(多分だいたいようぶかな)の三学部でした。

その時期、一級上に浜田さんという先輩が広商はじまって以来はじめて広商←早大という道を切り開いて頂いていました。その人の親戚の家に一か月間(二月初めより) 受験の為に合宿させて頂いていました。その方は、御自分で学習塾を経営していらっしゃいました。

その一か月間の生活は、朝六時に起床して七時までその家の犬をつれてランニング、七時から八時まで朝食、八時から十二時まで勉強、十二時より一時まで昼食、一時より六時まで勉強、六時から七時まで夕食、七時から十時まで勉強、十時から十二時まで先生(塾長) より本日勉強した事よりテストという一日の生活パターンでした。

何故、朝一時間のランニングかといういいいますと、教育学部教育学科体育学専修というところが第一志望でしたので一次が体育実技、二次がペーパー試験の為でした。

一番最初の商学部の試験の時、その方の家が大森にありましたが朝早く大森の家まで原岡さんに来て頂きました。原岡さんは、小平という所へ住んでいらしてとても遠かったと思います。

私と共に、満員電車にのって高田馬場まで行っていただき、その中でみんなカボチャやジャガイモだと思えば、あがらなくても自分が一番だと思つて自信をもって受けてこいと試験場の目の前まで送っていただきました。

これは、当時広島から出てきて右も左もわからない私にとってどれほど心強かったか今でも忘れられません。

又、今自分がその立場になった時、はたして朝早くおきて試験場まで連れていくという同じ事が出来るかどうか正直疑問です。

やはり原岡さんならでは、心くばりではないかと感謝にたえません。

ところが世の中そんなに甘くなく、自分では七十七〜七十八点位とれたと思っていましたので受かったと思いました。何故七十七〜七十八点位かといいますと、試験が終わればすぐ校門の外に予備校の人達がたくさんいまして、すぐに答を配っているのです。問題用紙に自分の答を書いて、外でもらった答を共に受験した山坂と近くの喫茶店へ行って点数合せをしたからです。私も彼も、ほとんど同じ点で二人共受かったなといって喜んでいました。しかし結果は、ものの見事に落ちました。

これは、後でわかった事ですが、たしか七十九点か八十点が最低ラインの合格点数だったみたいです。一つの〇か×が、その一点、二点に何百人もいると聞いてその一点の重みを感じずにはいられませんでした。その一点で人生が変わる事もありますので。

さて次は、第一志望の教育学部です。まずは、実技の試験からです。五十m走、ハンドボール投げ、立ち巾飛び、リズム体操、S字走法、懸垂の六種目です。五十m走、S字走法はあまり気にしていませんでした。問題は、懸垂です。数をたくさんやるだけなら一気に出来ますが、アゴの下を鉄棒の上までゆっくりあげていき、手をまっすぐおろして又次をやるというやり方でないとカウントしてくれないとの事なので普通考えている懸垂より何倍も大変なのです。

しかし最後まで一生懸命やっている姿を見せると教わっていましたので歯をくいしばってやり抜きました。

次は、二次の英、国、社です。でも何故かこの内容はよく覚えていません。一つだけ国語の中で全部勉強するのは、時間的に無理なので、ここ五年間位の問題を見て原岡さんより明治以降の現代史が出ると思うので二日前によく覚えておくようにと指示を頂きました。

何故二日前かといいますと、もっと早く覚えても、忘れてしまうからだとの事でした。

これが何と当日の試験に丸々出まして、国語の約三分の一の問題量でしたが、その部分では満点でした。

その教育学部の合格発表の前に、次の社会学部の試験です。

当時の私は、今振り返ってみますと恥ずかしいのですが、まるで小天狗のようになっていました。あれだけ出来たので教育学部に受かったと思いましたが、(商学部の時も) 島山先生と両親に、次の社会学部は受けなくて広島に帰りたいと電話したら、当然のごとく「何をいっているんだ。全部うけて帰ってこい。」と先生に怒られました。

しかし一度、緊張の糸が切れたものは元にはもどりませんでした。

当日の社会学部の試験は、気はのらないし、やる気もなし、大学受験なのに寝ていました。そうしたら試験官の人が具合でも悪いのかと心配してくれ、いいえと返事をし、終わったら外へ出てもいいですかと聞くと、いいとの事なので残り十五分位あまっていたのですが外に出ました。当然答は半分くらいしか書いてなく、受かるはずもなく落ちました。こういう高慢というか、いい加減というか、自分らしい所があったと今ではなくした自分が昔をなつかしがっている部分もあります。結果的には、周りの皆さんの協力のおかげで第一志望の教育学部に入る事が出来ました。

それから現在まで二十才で大学を卒業し、節目、節目で原岡さんに適切なアドバイスを頂き、又、現在、日本料理店を営んでいる私はお客様として来ていただき、今なお兄弟のような関係を保ち可愛がって頂いております。

一生このような関係を保っていたら広商野球部時代つちかったものを忘れず、又一橋大学の友達からいただいた目に見えないいろんな物を自分の財産としてこれからの自分の人生の道しるべとして生かしていけたらと思っております。

尚、一橋大学野球部七十五年をお祝いすると共に、二十一世紀に入り百年、二百年とこれからも、発展していける事をいのっております。

【プレイバック交流史・一橋倉田さん広商野球部 100 年史寄稿】

「広商野球部へのエール」

倉田 紀彦

(平成 8 年一橋大学社会学部卒 東京・桐朋高出身)
全日本空輸(株)勤務 広商野球部：村上部長 折田監督



この度は広島商業野球部の栄えある創部100周年記念誌に寄稿することになり大変感激しております。

さて、私は在学中に2回広島商業との合同練習に参加いたしました。(以下広商合宿)一回目は大学2年生の冬(平成5年)、二回目は大学4年生の夏(平成7年)でした。

①平成5年の広商合宿

一橋側は西村新主将以下1、2年生を中心に10名程参加。当時の広商は村上部長、金光監督が指導されており、同年秋季中国大会で優勝し翌年の選抜高校野球大会の参加を控えていました。

参加する前に私の抱いていた広商のイメージは堅い守りとバントのイメージでありましたが、いざ参加してみると澤田、伊藤を中心とした打撃のチームということもあり、打撃練習にも大変力を入れており驚きました。金光監督の選手の特性を考え、長所を伸ばす考えによるものでありましたが、伝統を頑なに守りつつ時代に合わせて新しいものを取り込んでいく広商野球に深い感動を覚えた記憶があります。

②平成7年の広商合宿

一橋側は旧三商対戦を控えていることもあり酒向主将以下25名全員で参加。当時の広商は村上部長、折田新監督が指導されており、秋の新人戦を控えていた時期でした。時間的な制約、試合を控えている状況もあり練習試合形式を数試合行いました。結果は守備力、投手力の差が出て一回も勝つことが出来ませんでした。就任したばかりの折田監督の情熱的な指導が大変印象的でした。

以上簡単に2回の合宿をまとめましたが、このような野球を通じた交流の場を末永く続けていただきたいと思っております。何故なら野球の技量を互いに高め合うばかりでなく大学生と高校生の交流は何事にも代え難いものであると確信しております。大学生はひたむきに努力する広商の野球部員にともすれば忘れてしまう努力する姿勢を思い出し、強い感銘を受け、高校生は普段あまり接することのない大学生のお兄さんから勉強を教えてもらったり、人生相談を受けたりと互いに高め合う機会を得ることができるはずです。交流を続けられるようOBとして協力は惜しまずしていきたいと思っております。

この頃以前のように広商が甲子園を大暴れすることが少なくなり、さみしい思いがします。広商が伝統を守りながら、その上に変わりゆく野球のスタイルを取り入れながらこれからの100年の広商の新しい広商伝説を作っていただきたいと切に願っております。変わってはいけないものを残し、時代に合わせ自らが変わって進化していかなければ組織が活性化せず強くなれないと思われまます。

最後に私が在学中には食事面、宿泊面など数々のご厚意をいただきましたことを今でも感謝しております。

更なる広商のご発展をお祈りいたします。(倉田 記)

今月も一球通信をご覧頂きありがとうございます。

早いもので、本年も数日を残すのみとなりました。2019年の硬式野球部は総勢16人の新入部員を迎えた春に始まり、夏には三商大戦として横浜スタジアムで試合をするという貴重な経験をしました。一方で、春秋ともにチームとして思うような結果を残すことができず、非常に悔しい思いをした1年でした。学生中心の新たな取り組みにより主体的な練習ができたものの、組織運営の難しさも痛感致しました。ミーティングや練習を重ね、春に期待に添える結果が出せるよう、部員一同練習して参ります。

皆様におかれましてはどのような1年を過ごされましたでしょうか。寒さも増して参りますが、ご自愛の上、良いお年をお過ごしください。

来年も硬式野球部への変わらぬご支援・ご声援のほど宜しくお願い申し上げます。

2年マネージャー

浅川彩音

一橋大学硬式野球部公式ホームページはこちら↓

<http://jfn.josuikai.net/circles/sports/hit-u-bbc/>

↓ご意見・ご要望・配信停止等のご連絡等はこちらまで↓

hit.u.bbc.mg@gmail.com

硬式野球部ホームページ OBOG ページ パスワード

hitbbc